

付録

急性胆管炎のバンドルチェックリスト

- 6～12時間毎の診断
 - 腹部単純X線, 腹部超音波, CT, MRI, MRCP
 - 診断時, 24時間以内に重症度判定基準を用いた重症度評価
 - 24時間毎に重症度を再評価
 - 診断次第, 初期治療(絶食, 十分量の補液, 電解質補正, full doseの抗菌薬)開始
 - Grade I (軽症): 初期治療に24時間以内に反応しない場合, 胆道ドレナージ
Grade II (中等症): 早期胆管ドレナージ
Grade III (重症): 臓器サポートと緊急胆管ドレナージ
 - 上記での胆管ドレナージや外科的手術が不可能な場合搬送
 - Grade II (中等症)とIII (重症): 血液と胆汁の細菌培養
 - 急性胆管炎消褪後の有石症例に胆嚢摘出術
-

急性胆嚢炎のバンドルチェックリスト

- 6～12時間毎の診断
 - 腹部超音波, CT
 - 診断時および24時間以内の重症度評価
 - 24時間毎に重症度を再評価
 - 速やかな初期治療(抗菌薬投与を含む)
 - Grade I (軽症): 発症後72時間以内の早期胆嚢摘出術
 - 保存的治療を選択したGrade I (軽症): 24時間以内に軽快しない場合, 発症から72時間以内であれば胆嚢摘出術, それ以降は胆嚢ドレナージを再考慮
 - Grade II (中等症): 速やかな胆嚢ドレナージ(経験豊富な施設では胆嚢摘出術)。初期治療で改善がない場合胆嚢ドレナージ
 - 胆嚢ドレナージ後Grade II (中等症): 全身状態改善後, 胆嚢摘出術
 - 局所コントロール不良Grade II (中等症): 胆嚢・腹腔ドレナージ, 経験豊富な施設では胆嚢摘出術
 - Grade II (中等症)手術リスクを有する症例とIII (重症)症例: 速やかに胆嚢ドレナージ
 - Grade II (中等症)とIII (重症): 血液と胆汁の細菌培養
 - Grade III (重症): 抗菌薬投与等の初期治療と臓器サポート。バイタルが安定次第緊急胆嚢ドレナージ
 - Grade III (重症)に対する胆嚢ドレナージ後: 全身状態改善後, 胆嚢摘出術
 - 上記での胆道ドレナージや外科的手術が不可能な場合搬送
-